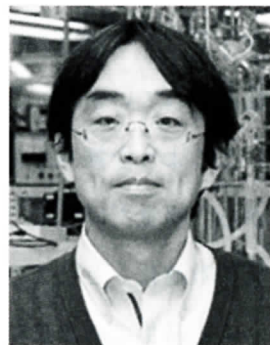


卷 頭 言

来たバスに乗れ！

松 本 太*



神奈川県で表面技術協会の講演大会が行われたのは、今から24年前の第89回講演大会であるとお聞きしております。私も卒業研究で研究室に配属されてから、様々な講演大会に参加してきました。それらの学会から新たな研究テーマを見つけたり、共同研究者に出会ったり、様々な経験をさせていただきました。学会に参加することは、様々な研究成果を目指して出発するバスが行き交う「バスターミナル」に行くようなものであると学会の参加の際に考えています。なぜ私がそう考えるのか、その理由をここで紹介いたします。

タイトルの“来たバスに乗れ”は神奈川県が出版する「学問への誘い」に掲載された神奈川県職員 伊藤貴志氏のエッセイの題目をお借りしました。この文章は、伊藤氏が京都の有名な大学教授からお聞きした話を自分の経験と照らし合わせて、学生たちにいろいろ考えずに「来たバスに乗ってみては？」とメッセージを送っています。この文章は、まさしく人生を切り開くためのポジティブシンキングであり、ことあるごとに私はこのエッセイを学生に紹介しています。以下に伊藤氏の文章の一部を引用させていただきます。

「京都はバス路線が豊富なので、たとえ目的地に着かないバスでも同じ方向へ進むバスなら乗ってしまえばいい。その先の停留所で降りてもすぐに次のバスがやってくるので、必ず目的地にたどり着ける」

(中略)

その先生が自らの研究者生活をこう振り返ったのです。

「私はただ“来たバスに乗ってきた”だけなのです。」と。

意外なことに、その先生は受賞した研究が「取り組みたいテーマではなかった」ことを打ち明けてくれました。学生時代の指導教授に、たまたま与えられたものだったというのです。それ自体、珍しいことではありませんが、その後「たまたま“海外で研究しないか”と誘いが舞い込んできた」という理由で海を渡り、古巣からの招きで帰国の途に就きます。その間、先生は一貫して、“与えられたテーマ”の延長線上を歩み続けます。その成果がついには高く評価されたのですから運命というのには不思議なものです。

(中略)

自分がやりたいことと実際にできること、相手が自分にやってほしいことというのは、案外違うものです。実はやりたいことがあるかどうかなど、あまり重要ではないのかもしれない。

神奈川県はあなたが乗りたかったバスですか？ この際そんなことはどうでもいいことです。あなたが目指す目的地に向かうためのバスでしかありません。次にどのバスに乗り換えるかはあなたの自由。あなたは無限に存在するバスに乗り換えることを必ず強いられます。

(中略)

あなたがどこへ向かいたいのか、それさえ見つかったら、それでいい。

私の場合、様々な研究グループで様々な研究を行いました。つまり、様々なバスに乗ってきて、現在に至ります。表面技術協会とはたまたま所属した研究グループで出会った学会であり、その後、10年近く表面技術協会への足は遠のき、神奈川県に着任した時に前任の佐藤祐一先生からめっきの研究をすすめていただき、現在の研究に至りました。研究もやはりすべては縁であり、研究者は良縁に出会うように様々な学会に参加し、人の話を聞いたり、論文を読んだりします。外に出てバスに乗ってみないと研究は新たな展開には進めないということだと常に考えております。

さて、今回、神奈川県という表面技術に関する研究者が少ない大学で歴史ある表面技術協会の第139回講演大会が開催されることになりました。様々な研究が行き交うバスターミナルの運営を受け持つのは、大変な役目ですが、皆様も新たなバスに乗るための、最良の機会を裏方としてお手伝いすることは光栄であります。皆様も新たな研究に出会うため、何かに会えるかなと期待に胸に、横浜へお越しください。そこには必ずあなたが次に乗るバスがあります。

*神奈川県 工学部 第139回講演大会実行委員長